

社会還元加速プロジェクトについて

社会還元加速プロジェクトについて

問題点

要素技術としては確立されつつあるが、それらの技術を国民が享受できていない。



異分野技術融合、官民協力・府省融合、システム改革、技術の社会システムとしての実証研究(5年以内に開始)を通して**成果の社会還元を加速**

社会還元加速プロジェクトの例

1. 生涯健康な社会

- ・人体機能を補助・再生する医療

2. 安全・安心な社会

- ・災害情報通信システム
- ・安全で効率的な道路交通システム(ITS)

3. 多様な人生を送れる社会

- ・先進的な在宅医療・介護

4. 世界的課題解決に貢献する社会

- ・食料・飼料と競合しないバイオマス資源の総合利活用

5. 世界に開かれた社会

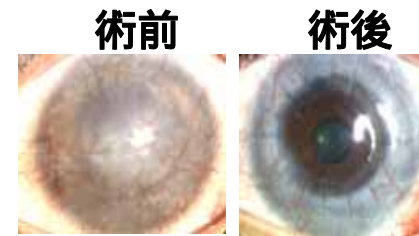
- ・音声コミュニケーション技術

「社会還元加速プロジェクト」の例（1）～「生涯健康な社会」を目指して～

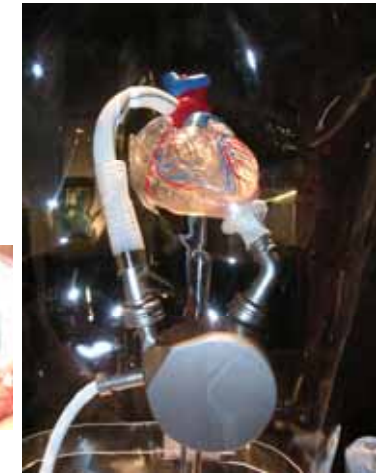
失われた人体機能を補助・再生する医療の実現

課題

- ・補助・再生の医療分野において、欧米に比べ実用化が遅い。
- ・埋め込み型医療機器等の実用化に向けた諸課題（小型化・副作用の低減等）の克服が必要。



再生医療の例：
角膜損傷の治療



医療機器の例：
補助人工心臓

プロジェクトの概要

以下についての技術開発、システム改革を5年以内に行い、国民への還元を加速する。

【技術開発】

皮膚、角膜、軟骨等の分野での再生医療の実用化

医療機器の小型化、副作用の低減など機能の向上の促進

【システム改革】

安全性・品質等を確保する適切な評価基準の確立

審査体制の強化による承認審査の迅速化

産業界・研究者・臨床医師等が医工連携できる実施拠点の整備

社会還元加速プロジェクトの例(2) ~ 「安全・安心な社会」を目指して ~

きめ細かい災害情報を国民一人一人に届けるとともに災害対応に役立つ 情報通信システムの構築

課題

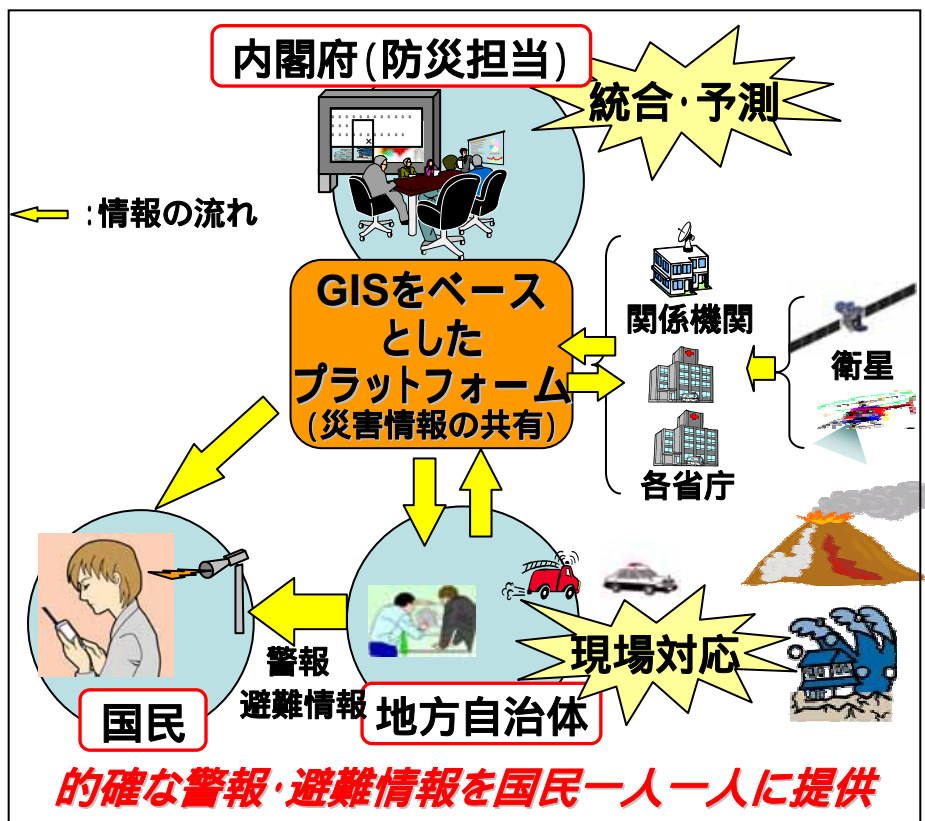
- ・災害情報の伝達・収集が円滑でなく、1枚の地図に統合化された情報として一元的に把握・発信できていない。
- ・国民一人一人に災害情報が確実に伝わるシステムとなっていない。

プロジェクトの概要

以下の技術開発を行い、5年以内に
モデル地域を設定し、実証研究を行う。

- ・災害・被害情報を1枚の地図に統合化して一元的に管理・共有できる新たな情報通信システムの構築
- ・国民一人一人に迅速に情報伝達可能な通信網と情報端末の開発

等



研究開発独立行政法人の研究開発力の強化について

研究開発独立行政法人について

位置づけ

イノベーションを創出する上では、我が国の大学、研究開発独立行政法人及び民間が持つ研究開発力を最大限に活かすことが不可欠
中でも、研究開発成果を民間に橋渡しする研究開発独法は、極めて重要な役割



イノベーション加速のために研究開発独立行政法人の改革が必要

改革の方向

研究開発独立行政法人の研究開発力を強化し、経営努力を促進するための取組を実施

- ・研究者の円滑な確保を可能とするよう、人件費削減に係る運用ルールを見直す
- ・知的財産収入に基づく利益の全額を経営努力とみなし、目的積立金とする

研究開発独法の担うべき役割、あるべき姿について引き続き検討する